

農業の登録内容は頻りに変更されます。農業は最新情報を確認して使用しましょう。最新情報は府・農の普及課、JA、Web版大阪府農作物病害虫防除指針 (<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>) から。農産物の病害虫発生予防については大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ (<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>)

営農総合センター 営農指導課 (072-444-8001)



# 水稲

## ◆水管理および中干し

この時期は除草剤の効果を持続させるとともに、根の活性を高めるため、水管理に留意する。高温が続くときは、有機物の分解に伴う有毒ガスが発生し、根腐れや下葉に酸素不足に伴う赤枯れ症状が発生することがあるので、そのときは落水し、間断かん水する。

中干しは出穂40〜30日前に、根の張りを良くし、無効分けつを抑えるために行なうもので、目標茎数が確保できたらその時点で行なう。

時期の目安は、キヌヒカリなどの極早生品種は7月上旬、きぬむすめなどの早生品種は7月中旬、ヒノヒカリなどの中生品種は7月下旬に行なう。あまり干し過ぎると逆に根を傷めるので、足跡がつく程度にする。特にヒノヒカリは強い中干しをする。根の回復が悪いので、注意する。

◆穂肥  
中干し後、葉色が退色したのを確認し、穂肥として、太閤(12、4、12)を10a当たり25〜35kg施す。葉色が濃い場合は少なめにする。

穂肥は1回(出穂20日前)で済ませる場合もあるが、できれば施用量の2/3の量を出穂25日前に、残りの1/3を出穂15日前に施用する。

ただし、ユーコート680等のコーティング肥料を元肥に使用した水田では穂肥は必要ない。遅くまで窒素肥料が効いていると食味が低下するので、追肥時期、施用量は生育状況にあわせて行なう。

## ◆病害虫防除

・ニカメイチュウおよびウンカ類  
プリンス粒剤を箱処理した場合は殺虫効果が50日程度と長期にわたって持続するので、この防除は不要になるが、プリンス粒剤を施用していない場合、防除にはパダンバツサ粒剤(10a当たり3〜4kg/収穫30日前まで/5回以内)などを田面に均一散布する。

## ・イネツトムシ

窒素肥料がよく効いている田では、葉色が濃く過繁茂となり、7月下旬から8月上旬にかけて幼虫が発生しやすくなる。田をこまめに見て回り、発生初期にパダンバツサ粒剤(10a当たり3〜4kg/収穫30日前まで/5回以内)などを田面に均一散布する。

## かん水

梅雨明け後、乾燥が続くとイモの肥大が悪くなり、収量に大きく影響するので、2〜3日に1回程度、うね間かん水を行なう。かん水は夕方から行ない、朝には水が引いているようにする。

## ◆病害虫防除

アブラムシ類、カンザワハダニの発生があれば、表2の薬剤などで防除する。

## つちぞけい

立ち枯れなど生育障害が出る場合は7月に太陽熱利用による

表1. なすの害虫防除に登録がある農薬

害虫名	薬剤名	希釈倍数	使用時期/使用回数	10a当たりの散布流量
アミナミキウマイロ	アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで/2回以内	100〜300ℓ/10a
	コテツフロアブル	2000倍	収穫前日まで/4回以内	100〜300ℓ/10a
	アフアーム乳剤	2000倍	収穫前日まで/2回以内	100〜300ℓ/10a
アミナミキウマイロ	スピノエース顆粒水和剤	2500〜5000倍	収穫前日まで/2回以内	100〜300ℓ/10a
	アーデント水和剤	1000倍	収穫前日まで/4回以内	150〜300ℓ/10a
	コテツフロアブル	2000倍	収穫前日まで/4回以内	100〜300ℓ/10a
ハダニ類	スターマイトフロアブル	2000倍	収穫前日まで/1回	100〜300ℓ/10a
	ピラニカEW	2000〜3000倍	収穫前日まで/1回	150〜300ℓ/10a
	マイトコネフロアブル	1000倍	収穫前日まで/1回	100〜300ℓ/10a
オオタバコ	アフアーム乳剤	2000倍	収穫前日まで/2回以内	100〜300ℓ/10a
	コテツフロアブル	2000倍	収穫前日まで/4回以内	100〜300ℓ/10a
	スピノエース顆粒水和剤	5000倍	収穫前日まで/2回以内	100〜300ℓ/10a

※アルバリン顆粒水溶剤、アフアーム乳剤、スピノエース顆粒水和剤は、アザミウマ類で登録がある。

表2. さといもの害虫防除に登録がある農薬

害虫名	薬剤名	希釈倍数	使用時期/使用回数	10a当たりの散布流量
アミナミキウマイロ	アディオン乳剤	3000倍	収穫7日前まで/5回以内	100〜300ℓ/10a
アミナミキウマイロ	アドマイヤー顆粒水和剤	10000倍	収穫14日前まで/2回以内	100〜300ℓ/10a
ハダニ類	コテツフロアブル	2000倍	収穫7日前まで/2回以内	100〜300ℓ/10a

表3. しゅんぎくの害虫防除に登録がある農薬

害虫名	薬剤名	希釈倍数	使用時期/使用回数	10a当たりの散布流量
アミナミキウマイロ	アフアーム乳剤	2000倍	収穫7日前まで/2回以内	100〜300ℓ/10a
アミナミキウマイロ	トリガード液剤	1000倍	収穫7日前まで/2回以内	100〜300ℓ/10a

※トリガード液剤は、ハモグリバエ類で登録がある。

表4. こまつなの害虫防除に登録がある農薬

害虫名	薬剤名	希釈倍数	使用時期/使用回数	10a当たりの散布流量
アミナミキウマイロ	アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	収穫3日前まで/2回以内	100〜300ℓ/10a
アミナミキウマイロ	モスピラン顆粒水溶剤	4000倍	収穫7日前まで/1回	100〜300ℓ/10a

※アルバリン顆粒水溶剤は、非結球あぶらな科葉菜類(チンゲンサイを除く)で登録がある。

\*農薬名の後の括弧内は、(希釈倍数/使用時期/総使用回数)を表示しています。

# 果樹

## みかん

◆荒摘果  
樹によって着果量にバラツキの出た園では、樹の状態を見て荒摘果を7月中旬から始める。また、病害虫被害果や傷果・天

## ◆栽培管理

施設では日中は高温になるのでハウスの屋根に遮光ネット、寒冷しゃなどを展開する。

## ◆病害虫防除

キスジノミハムシの発生があれば、表4の薬剤などで防除する。

## もも

### ◆夏季せん定

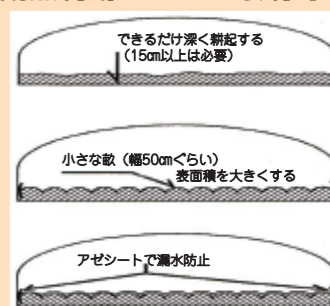
### ◆病害虫防除

7月上旬にモモハモグリガ、ナシヒメシンクイ、カメムシ類を防除するには、アルバリン顆粒水溶剤(2000倍/収穫前日まで/3回以内)を、ハダニ



# 野菜

## 太陽熱利用による土壌消毒の方法



- ① 稲わら(1t/10a)、石灰窒素(80〜100kg/10a)を入れ耕うん機で耕起する(連作ほ場で石灰が多量に土壌に残っている場合は、石灰窒素の代わりに尿素(40kg/10a)を施用する。また窒素が多く残っている場合は、尿素は施用しない)。
  - ② 耕起した後、幅50cm位のうねを立てる。
  - ③ ビニールフィルムで被覆する。
  - ④ 被覆したビニールフィルムの下へ土を湿らす程度に水を入れる。水が十分入ったら、ハウスを密閉する。密閉状態で14〜20日間放置する。途中で水を入れないこと。
  - ⑤ 土壌消毒終了後、ハウスを開放し、ビニールフィルムを除去する。ほ場が乾いたら、うね立てを行なう。
- ※ 除塩をする場合は、土壌消毒後たん水し、2〜3回水を入れ替える。日照りが十分得られることが成功のポイント。気温が低く日照りの少ない冷夏の年は十分な効果が得られない場合がある。

7月中旬〜8月中旬は一年で最も気温が高くなる時期で、太陽熱利用による土壌消毒の適期となっている。

## ◆栽培管理

ハウス栽培の水なすの半身萎ちよう病や、こまつなの萎黄病などの土壌病害も安全に消毒できる上、有機質資材を施用することで土づくりも同時にできるメリットがある。さらに引き続き除塩を行なうと塩類濃度障害も回避でき、しゅんぎくの立ち枯れにも効果がある。

## 水なす

### ◆栽培管理

露地栽培では排水に努め、降

土壌消毒とたん水除塩を行なう。

## ◆病害虫防除

マメハモグリバエの被害が多い時期なので、収穫後は作物残さを残さないように、ほ場を衛生的に保つ。また施設の場合、収穫後にうね全面をビニールで被覆し、地表下の温度を上げて地中にいる蛹を殺すことも有効である。発生を認めたら表3の薬剤などで防除する。

成り果・すそ成り果を摘果する。

## ◆病害虫防除

7月中旬にゴマダラカミキリ成虫を防除するには、スプラサイド乳剤40(10000〜20000倍/収穫14日前まで/4回以内)を、カイガラムシ類の防除には、スプラサイド乳剤40(10000〜15000倍/収穫14日前まで/4回以内)を、ミカンサビダニの防除には、バリユースターフロアブル(20000倍/収穫7日前まで/1回)を散布する。

昨年ミカンサビダニの被害が発生した園は必ず防除を行なうようにする。

\*バリユースターフロアブルは、かんきつのサビダニ類で登録がある。



類の防除にはスターマイトフロアブル(2000倍)／収穫前日まで(1回)を散布する。

黒星病、灰星病が多発する園では、ベンレート水和剤(2000~3000倍)／収穫前日まで(3回以内)を散布する。

\*アルバリン顆粒水溶剤は、シंकイムシ類で登録がある。

### いちじく

#### ◆摘心

果実の着色不良や不要な養分の消耗を防ぐため、10月末までに収穫できない部分から上を伸ばさないよう摘心する。

摘心は下から20段前後の位置で行なうが、摘心部分の高さを決めておけば葉数を数えなくても良いため省力的である。

#### ◆病害虫防除

ハダニ類が発生していれば、7月中旬にダニトロンフロアブル(10000~20000倍)／収穫3日前まで(1回)を散布して防除する。

また、雑木林の近くでは、カミキリムシ類の被害を受けやすい。成虫は見つけ次第、捕殺しておく。樹幹部から幼虫が糞を出している場合は、園芸用キンチョールE(収穫前日まで/2回以内)のノズルを食入部に差

し込み、薬剤が食入部から逆流するまで噴射する。

#### ◆かき

#### ◆摘果

上向き果を落とし、横向きや下向きで大きく、緑色が濃い果実を基本に、腰が高く、ヘタの大きいものを残す。摘果の程度は、富有柿などの大玉種では1結果枝に1~2果、平核無は長大な結果枝で2~3果を残す。着葉数が5枚以下の弱小枝には結実させない。

#### ◆病害虫防除

7月下旬に炭そ病、落葉病の予防にトップジンM水和剤(10000~15000倍)／収穫前日まで(6回以内)を、カキノヘタムシガの防除にバダゲンSG水溶剤(15000~30000倍)／収穫45日前まで(4回以内)または、アデオン乳剤(20000~30000倍)／収穫7日前まで(5回以内)を散布する。カメムシ類が見られたら、スカウトフロアブル(15000倍)／収穫7日前まで(5回以内)、または、アデオン乳剤(20000~30000倍)／収穫7日前まで(5回以内)を散布する。



## お米で健康

### 夏バテのビタミン不足に胚芽米



管理栄養士・雑穀料理家 ● 柴田真希

暑い日々が続くと「そうめんやそばなど冷たい麺類に麺つゆだけ」というような食事になりがちです。短時間で作れて、食欲がないときでも食べられる麺類にはつい手が伸びてしま

いますが、このような食事を続けていると、タンパク質やビタミン・ミネラルが不足しがちなり、疲れやすくなったり夏バテの原因になったりします。そんなときにもご飯がおすす

めですが「暑くて台所にあまり立ちたくない」「もっと効率良く栄養を取りたい」。そんな人におすすめなのが「胚芽米」です。白米より健康に良いことはなんとなくご存じの方もいらっしゃると思いますが、玄米や白米との違いは何なのでしょう。

まず、玄米とはもみ米からもみ殻を除いた精白していないお米のことです。白米に比べて夏バテ時に補給したいビタミンB1は5.1倍、抗酸化作用のあるビタミンEは12.0倍も含まれています。

それに比べて胚芽米(胚芽精米)は、ぬか層のうち胚芽だけを選択的に残して、他を除いた

物で胚芽保有率80%以上の物をいいます。白米に比べてビタミンB1は2.9倍、ビタミンEは9.0倍と玄米には劣りますが、大切なのは消化と吸収です。

食物繊維も豊富な玄米は、不足しがちな栄養が取れるというメリットはありますが、しっかり消化できるように炊くのに時間がかかり、お子さんや高齢者、胃腸の弱い方や夏で弱っているときには適さないこともあります。

調理方法や食感が白米に近い胚芽米は、夏でも無理なく栄養が補給できるのです。夏は汗などでビタミン・ミネラルが不足しがちになります。しっかりと栄養のあるお米で補給していきましよう。



■白米と比べた栄養価

	玄米	胚芽米
ビタミンB1	5.1倍	2.9倍
ビタミンB2	2.0倍	1.5倍
ビタミンE	12.0倍	9.0倍
マグネシウム	4.8倍	2.2倍
食物繊維	6.0倍	2.6倍

【日本食品標準成分表2015年版(七訂)】より計算

\*農薬名の後の括弧内は、(希釈倍数)／使用時期／総使用回数 を表示しています。